

令和6年度 明徳会 事業報告

◇ 事業方針

みんなに やさしい めいとくかい

◇ 今年度の目標 取り組みポイント

目標設定「やさしい大作戦！」

① 定着率向上にむけて

各々の事業所でマニュアルの整理、視える化に取り組み、新しい職員が抵抗なく働ける仕組み作りに取り組んでいます。コミュニケーションを大切にし、互いに認め合い、職員同士が思いやりを持てる職場となれるよう、企画やイベントを法人として支える仕組み作りを行っています。事業所間を超えた交流も図る機会となったのではないかと感じています。

② 処遇働き方編

それぞれの個性を大事にライフステージにあわせた、勤務の仕方や仕事内容、キャリアアップなど、自分にあった働き方を選択できる仕組み作りに取り組んでいます。具体的には男性職員の育休取得や女性職員の育休明け復帰のシフト等、それぞれの環境に合わせて勤務できるようにし、実際に活用してもらっています。また、未来は明るいプロジェクトでは職員の高校生以上の子どもを対象として、長期の休み期間を利用してアルバイトという形で福祉に触れる機会も兼ねて働く形を設けています。未来を担う子どもたちに福祉に興味を持ってもらう良い機会ともなっています。

③ 職場環境編

生産性の向上・業務効率化を目的として、ケアラボやインカムの導入、AIの活用など、デジタル化できるところはDX化を進めています。効率化だけを見据えるのではなく、支援に役立てていけるものを意識して取り入れていくようにしています。今後も益々人材不足が進んでいくことが予想される中で、有効性の高いものは積極的に取り入れていくことで、より良い職場環境を目指していきます。

◇ 事業内容

● 入所／通所生活介護

入所部で一件虐待事案が発生しています。はっきりと虐待の認定があるまでには至って

いませんが、改めて自事業所の権利擁護、身体拘束に関することの振り返りと再発防止に向けた取り組みを行っています。活動に関しては色々な感染症に関して依然として気をつけていかなければならない状況にありますが、外部との関りは以前に近い状態に戻ってきており、通所入所ともに外に出る機会が増えています。また、運営に関するところでは重度加算の申請を行ったことで収支的には弱冠ではありますがプラス方向となっています。意思決定支援を基盤として活動の充実と令和7年度から地域連携推進会議、令和8年度からの地域移行に関する取り組みの義務化も迫っているため、それに向けた準備も行っています。

● ゆめくらしワークス

支援の安定的な提供体制が不十分な状況であったこともあり、受け入れに関しては調整しながらの運営となっています。そのためどの事業も定員数を下回っており、ゆめくらしワークス全般でマイナスな状況となっています。次年度は産休育休明けの職員も戻ってくる予定で、10月からは新たに就労選択支援という事業もスタートする予定もあるため、それに向けた支援体制の構築を図っていくことが求められています。必要なところに必要な人材を配置し、明徳会の就労支援分野として新たな展開を見据え準備を行っていきます。

● ゆめくらしグループホーム

入居者の方の高齢化が進んでおり、更に介護保険へ移行する方も増加しています。また施設入所支援での待機者数の課題や地域移行に関して求められているところが高まっているため、グループホームの位置づけ、役割は益々重要となってきています。次年度は新たなグループホームの建設も視野に入れながら、ニーズと課題を整理し準備を行っていきます。

● ケア・ハピネス

利用者数の自然減のため利用率が毎年少しずつ減少してきています。そのため今年度は現場実習の受け入れも積極的に行い、R7年度からの支援学校卒業生の新規利用の方の受け入れに繋げています。令和8年度からは入所の地域移行に関するところで通所単体の生活介護事業所としての役割も重要となってきます。柔軟な受け入れ体制も考え準備を行っていきます。

● 地域連携部 相談支援事業所

熊本市の委託を受けて2期目のスタートとなっています。地域の中のネットワークの一つとして、結びつきも徐々に強化されてきています。今年度は年度の途中で兼務の相談員が異動となり欠員が生じるケースがあっています。異動した職員が兼務者であったこ

ともあり、なんとか残された職員でカバーできた状況でしたが、専門性の高い分野で急遽の欠員があった際の体制については次年度以降も課題として残っています。

● 事務部・人事部

新たに今年度からスタートする電子化や福利厚生といったところで、導入にあたって事務部でも準備やシステム作りといったところの対応を行っています。人事面では離職者が9名に対して新たに15名の採用を行っており、人員数的には多くなっています。今後も職員の定着に関するところも大切にしながら、選んでもらえる、働きたいと思ってもらえるような職場づくりに取り組んでいきます。

● 放課後等デイサービス

開所して2年となり、ほぼ定員の利用数に達しています。また地域の児童に関するネットワークや自立支援協議会の一部へも参加しています。送迎の対応などまだ運営しながら課題としてあがってくるものがありますが、その都度本部の事業所とも連携しながら解決に向けて柔軟な対応が図れています。今後も児童の部では年度で利用の方が入れ替わったり、ニーズも変化していくため、その都度協力体制をとりながら対応していく必要性があると感じています。

◇ 安心・安全・安らぎに向けて

今年度は、運営ポリシーが「みんなにやさしいめいとくかい」であったこともあり、自然と取り組む内容が三安に結びついていたように感じています。職員の働き方や業務効率化のためのDX推進などは職場環境の整備につながっていたり、入所で起こった虐待事案の案件に関しても、事案があったことで逆に自分たちの支援を振り返るととても良い機会となったのではないかと感じています。事案があった部署だけの問題として捉えず、法人全体で権利擁護に関すること、ご利用者様の生活する環境について、身体拘束に関する考え方など、もう一度職員研修を通じて振り返る機会となったと感じています。今後の再発防止に向けて、現場の問題だけでなく、管理面でも職員の教育・育成や働く環境・処遇面等、改善すべきところを見直し、継続的に計画実行できる形をつくっていくきっかけとしていきたいと思っています。

以上